

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学 1 年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



命の大切さ教室に参加して、改めて命の尊さや命の重みについて考えさせられました。もし、昨日まで一緒にいた友達や家族が別れもないに急にいてなくては、たら…と考えると助けられたか、悔い気持ちや悲しい気持ちで自分た、たらたえられない、と思ってしまいました。誰か1人の命が奪われたら悲しい人は沢山いるとするとその1人の人の存在は大きいんだなと感じます。人はいつ死んでもうかがわからぬ、という点で、生きているということは常に「死」を背負っているということだと思いました。だから、生きていることに感謝し、自分の命ある限りやることは沢山やりたいです。そして、家族や友達がいること、毎日楽しく生活できていることはあたり前だと思っていましたけれど、そのあたり前に有り難みを持つ、これから生活したいと思いました。

私の祖父が階段から落ちてしまい、体が不自由になってしまったことがあります。落ちる日の夕方、私は祖父に部活に送つて行ってもらいました。あんなに丈夫で元気だった祖父が病院のベットに寝ているのを見て、衝撃を受けました。弱々しくて、あの祖父の姿は思い出しちゃけて、苦しい気持ちになります。いつも、元気だった人が急に体が不自由になってしまったということが、何かを失ってしまったようで悲しかったです。今日、お話を聞いたこと、自分の経験から、命の大切さや生きることの幸せを学ぶことができました。本当にありがとうございました。

学校名

稻川中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

近野 ひより

より

ひよりさん、熊谷さんのお話から生きることと死について深く考えてくださってありがとうございます。また、当たり前の毎日を過ごすことの有り難みに気付いたことはとても大事なことだと思います。ひよりさんが自分の家族を大切に思う気持ちが伝わってきました。ぜひ家族にも伝えてほしいと思いました。



命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学 1 年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今回は、本当に話したくなかったような、とても辛い体験を私達のためにお話ししてください。本当にありがとうございました。

お話を聞いて、最初に思ったことは、「事故は身近なことである。よく聞くけれど、こんなにも身近だと私は思っていませんでした。でも私には、兄が1人います。兄は、本当に熊谷雄宇也くんと同じ年です。私には、年の3つ離れた姉がいます。姉は高校2年生で、横手高校に通っています。

熊谷雄宇也くんが24歳になるはずだったこと、事故の起こった場所は横手高校も近くにあったことを聞き、もしかしたら、自分の家族もと想像し、少し不安になりました。兄は今、元気に働いているだろうか、姉は今、家に無事に帰っているだろうか。今日姉と兄に行きます、行かない、を言いたどうか。私は出発時間が早い2人にはいつも言っていたんだ。

ういえどこか恥ずかしくて兄にはいつも「おかげ」も言えていたんだ。思い返してみると、特に兄がもし事故にあたら、私は必ず後悔することに気付きました。私の兄も姉も、母も県外にいる姉も、皆生きているけど、次の瞬間事故や病気で死んでしまうかもしれない。そう思って毎日を過ごすこと、後悔のできるだけない行動を心がけることを頭に置いて、日々を過ごしていきます。

学校名

稻川中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

高橋 ほのか
より

ほのかさん、今回の学習教室のこと、家族のことについて身近に考えていただきありがとうございました。何よりも毎日を大切に思ひやうの気持ちを持ち続けてください。



命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学 1 年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



僕は、話を聞いて改めて命の大切さを学ぶことができました。熊谷さんの話を聞くことで自分が亡くなる瞬間多くの人達が悲しくなりたり、生活が大きく変わってしまったんだと感じました。家族とのなにげない会話ができることや友達と遊んだり、一緒に勉強したりすることができるんだけ幸せなのがわかることができました。そして、どうすれば交通事故をなくすことができる僕達ができるかを考えることができました。左右確認や手をあげて歩くなどアドバイスをもらったりやるところが大切だと思いました。一人の命が家族やたくさんの人達にとってかかる。いつもといふことを忘れず日々過ごしていきたいと思います。誰もが皆、うやつ家族と話したり、友達と遊んだり、勉強ができるとは思わず一日一日を大切に頑張っていきたいと思します。

これからは、この熊谷さんの話を聞いて僕が一人で多くの人へ、事故といふことがどれだけ多く、苦しいものなのか伝えていけるようになっていきたいです。

話を聞かせてくれて本当にありがとうございました。

学校名

稻川中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

高橋 啓祐 より

命を失ってしまうことで、多くの人たちが悲しくなってしまいます。

高橋さんも、家族になにげない会話ができるること、友達で元気に遊ぶこと、勉強することの大切さを、これからも忘れないでくださいね。



命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学 1 年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今日のお話を聞いて、命の大切さとありがたみを再確認しました。命がうはわれるとということは、とても悲しいことだと思います。僕も 1 年半ほど前に、大好きだった僕の叔父を亡くしていて、人の命がうはわれたり、大切な人を失う気持ちがよく分かります。でも、僕は今日のお話を聞くまで、交通事故や死亡事故は、「日常的じゃないかな」と思ってました。そんな考えも、今日のお話を聞いてなくなりました。事故が起こる度に、「また一つ、大切な命がなくなってしまう。」ということに気がつきました。被害者それぞれに家族がいて、大切にしていく人がいるのに、「日常的」たなんてことを思っていた自分を責めたりました。今日のお話は、そんな大事なことを気付かしてくれた、どこもありがとうございました機会なのだと感じました。

学校名

稻川中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

永井奏汰

より

奏汰くんの叔父さんは、たくさんてしょじんじゅね。大切な人
がたくさんことは、本当に悲しいことですよね。

熊谷くんのお話を聴いて、被害に遭った方に、同じように
大切な家族がいることを教えてくれて、ありがとうございます。



命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学 1 年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



先日の公演会では、私たちに命の大切さについて
教えて、お話を聞いていただきありがとうございました。
毎朝の“いってらっしゃい” “いってきます” “帰ってきたときの
“おかえり” “ただいま”，この家族とのやり取りが一見自分たち
にとっては日常的で当たり前のことにように思っていたけど、
いざその当たり前の幸せが一瞬に近くすれてしまふ、たゞ一?
と考えたときに、そこには他の人の何倍もつく、はかり
知れない悲しみがあることを改めて実感しました。
また、普段から温かく見守って育ててくれる家族の優しさを
“当たり前”だと思わず、一緒に過ごせる時間を大切に
していきたいと思いました。
自分自身も将来事故にあわないように、そして自分自身
が事故を起さないよう気をつけ生活し今より
自分が元気に過ごしている幸せをかみしめながらの
人生を生きていきたいと思います。
短い時間でしたが、一つの命の重み、大切なもう一度学ぶ
ことができました。本当にありがとうございました。

学校名

稻川中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

佐藤 実莉 より

家族が温かく見守ってくれていると理解しているのは、
すばらしいことだと思います。その実莉さん自身の優しさ、
家族の優しさやみんなで過ごす時間を大切にして、
これからも健やかに毎日を過ごしていってください。
お手紙を書いてくれて、ありがとうございました。

